とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1223
施設名	MIWA木場公園保育園
施設所在地	東京都江東区木場４－１－６５
法人名	社会福祉法人みわの会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

音

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

・歌を歌うとマラカスを鳴らしたり、茶碗や鍋の蓋を叩き付けたりと音を楽しむ姿が見られた。園周辺は自然豊かで生き物の鳴き声や自然物の音に触れることができる環境を活かしテーマを音に設定した。

２．活動スケジュール

・散歩でどんぐりを拾う。拾ったどんぐりを小さいペットボトルに入れて作ったマラカスにより音に興味を持つ。

・どんぐりのマラカスと同じサイズの容器に塩や水を入れて様々な素材の音を試してみる。

・こども達が遊びの中で物と物がぶつかる音を鳴らして遊ぶ姿が見られた。

・日常で目にする機会がある身近な廃材(ペットボトル、空箱)を準備し、物と物をぶつけて鳴る音で遊ぶことが出来るようにした。

・散歩に出た時に風の音等に気が付き保育者に訴えようとする姿が見られた。

・雨の日にレインドラムを戸外に出して雨が降ることで聞こえる音を感じたり、ビニール傘をさして雨が傘に当たる音を感じることが出来るようにした。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

・乳製品飲料（R－１）のボトルを用意して同じ容器に異なる素材を入れて音の違いを感じることが出来るようにした。

・物と物がぶつかる音を楽しむことが出来るように、空箱やラップの芯、缶などを用意して音の違いを楽しんだ。

・レインドラムを購入し、遊びの中に取り入れながら音に親しんだ後、雨の日に戸外に出し、レインドラムの音を楽しむことが出来るようにした。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・R－1のボトルに散歩で拾ってきたどんぐりや木の実を入れてマラカスを作り遊ぶ。部屋に設置していた同じ容器で作られたセンサリーボトルを振って音が鳴らないことに気が付き、不思議そうに見るなどの反応があったので後日、同じ容器に様々な素材（水、ストロー、塩）を入れて音の違いを感じることが出来るようにした。

・風の音を「ピューピュー」と表現する姿が見られたため、自然現象で聞こえる音にスポットを当てた。雨の日にビニール傘をさして戸外に出たことで「ポツポツ」と音を表現する姿が見られた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

・マラカスづくりでは、子どもが自分でどんぐりや水の入ったボトルと、センサリーボトルを振って音がならないことに気付いた。センサリーボトルがならないことに気が付き、不思議そうにボトルの中を覗き込んでいた。こども達の遊ぶ様子を見守っていると様々な素材のマラカスが並ぶ中で必ず決まった音のマラカスを手にする子がいたりとそれぞれ好みの音がある事が感じ取れた。

・ビニール傘をさして戸外に出た時に、雨の音を「ぽつぽつ」と表現していた。また、雨の音からカエルにイメージが繋がり、カエルの歌を口ずさむ姿が見られていた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・継続的に様々な音に触れていく中で、こども達が日常生活の中で生き物の鳴き声や飛行機の音など生活の中で聞こえた音に反応し自分なりに感じた音を声にする姿が見受けられるようになった。日々の活動を積み重ねることで、興味を持つことが出来たり、探求心が広がっていたと感じた。

・日々の活動を積み重ねることでこどもの興味が広がっていたと感じた。こども達の目線や関心に目を向ける大切さを改めて感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

１．確認事項等

施設番号	66-1223
施設名	MIWA木場公園保育園
施設所在地	江東区木場4丁目１番地６５
法人名	社会福祉法人みわの会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然

＜テーマの設定理由＞

本園は木場公園の中にあり、園から出るとすぐに公園内の自然に出会うことができます。
そのため子ども達にも散歩で遊びに行った時に様々な自然に触れてほしいという思いや、
拾った自然物を使用して遊びに繋げられたらと思い、テーマを自然に設定しました。どんぐりに対しての興味があり、散歩先で拾って持ち帰り、様々な遊びに繋げました。

２．活動スケジュール

・散歩バッグを持っていき散歩先でのどんぐり採集
・どんぐりマラカスづくり→マラカスを使用した遊び
・どんぐりの絵本を見てそこから発見や探求心を持つ
・親子であそぼう会でどんぐりケーキを作る
・散歩でどんぐりが無くなったことに気付き、季節の移り変わりを感じる

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

散歩バッグを用意し、マークを貼り自分の物とわかりやすくした
マラカスを作るための容器を準備
選別したどんぐりを消毒し遊べるようにする
どんぐりに関する絵本を何冊か用意
行事（親子であそぼう会)の時にケーキを準備し、画用紙で製作したどんぐりをこども達自身が貼れるようにする
新聞紙、カラーポリ袋でリスのしっぽを作成

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・バッグを持って散歩に行き、どんぐり採集をする。拾ったどんぐりを持ち帰る。
・持ち帰ったどんぐりを使ってマラカスづくりをする。自分で作ったマラカスを振って歌を歌う。
・保育室の壁面の木に散歩先で拾った枝と画用紙で作ったどんぐりを貼り、こどもたちの反応、気付きを見守る。
・どんぐりにちなんだ絵本や図鑑を部屋に置く。保育者を囲み、マラカスの中のどんぐりと絵本のどんぐりの形が違うことに気付く。続けてどんぐり採集を行ったことで持ってきたどんぐりがどれなのかを絵本や図鑑を見て友達や保育者と探してみる。
・形が違うどんぐりが落ちている所へ散歩に出掛ける。持ち帰ったどんぐりを見比べる。
・りすのしっぽづくり→りすになりきって、好きなどんぐりを探しに散歩へ向かう。
・時期が外れたころどんぐりを探しに散歩に行く。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・持ち帰ったどんぐりを容器に入れ音が鳴ると「どんぐりころころ」を歌い、音を奏でて楽しんだり、容器の中にどれだけ入れられるか試す姿が見られた。
・どんぐりの絵本を読みながら「これかな？」などと友達や保育者と一緒にどんぐりを見比べて、どんぐりにも種類があることに気付く。
・容器に入ったどんぐりを「どんぐりじゅーす」と名付けお店屋さんごっこを新しく展開し、なりきって遊ぶなど遊びの幅が広がる。
・行事での経験を通して「私もりすになりたい！」と、子ども達から発信があり、保育士と一緒にリスのしっぽっを作った。

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・容器に入ったどんぐりと絵本や図鑑のどんぐりを照らし合わせるという姿に驚いた。
・図鑑を見ながら「これかな？」「こっちかな」と友達同士で関わりを持っていた。
・長期にわたりどんぐり探しを楽しんでいた。どんぐりの色が緑から茶色へ色が変化していくことに気付いたり、どんぐりが多く落ちている場所の木の上にも注目し、どんぐりが枝に実っている様子にも気付いていた。目に見える発見が多かったことで興味がさらに広がったと思う。
・どんぐりが無くなったころを見計らい探しに行ったことで゛なんでだろうね゛ということども達から不思議に思う声や、りすが食べてしまったかな、鳩が食べてしまったかなと色々な発想がうまれていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1223
施設名	MIWA木場公園保育園
施設所在地	江東区木場４－１－６５
法人名	社会福祉法人みわの会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

ごっこ遊び

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
①「プリンセスが好き」からスカートを履いたりバンダナとスカートを合わせてドレスに見立てるなどの姿が増えていた。
②クッションやカゴを棚やベンチを使い立てかけ、自分だけのの空間を作って遊んでいた
　どちらも遊びが魅力的だが数が少なく取り合いになってしうまう。それらの遊びを全体に広げたいと思った。
③繰り返しのある簡単なストリーのある絵本から模倣遊びができるようにしたい（おおきなかぶを保育者と楽しむ遊びがあった）

２．活動スケジュール

・11月に行う”親子であそぼう会”のテーマにごっこ遊びをつなげる為にどんなイメージ遊びが流行るのか、絵本、布などの素材、道具など遊びに合わせて用意していく。
・個々の遊びを守るために子ども自身が工夫している姿の環境を整えていく
・9/6広場での散歩　干し草を木の根の間に敷き”そらまめくんのベッド”遊び
・9/17”おおきなかぶ”　ホールにて「うんとこしょどっこいしょ」みんなでつながり保育者を引っ張る
・9/27大判の布（正方形、長方形）出す⇒　衣装にする姿もあったがシートのように広げお気に入りを運び陣地作りをする
・10/16本物のレジャーシートをテラスに出す。⇒ピクニックごっこで遊ぶ
・11/5 遊ぼう会にむけて　”おおきなかぶ”に”おなべおなべにえたかな”を混ぜごっこ遊びの流れであそぶ
・11/12・13遊ぼう会ごっこ遊びに加えて巧技台を使い探検をイメージして行う。
・11/15保護者と遊ぼう会を楽しむ
・1/8公園内（迷路）にてごっこ遊び⇒日常の再現遊び。家族のやりとりを６名で楽しむ（囲いのある空間が家）
・1/17ホール巧技台　はしごを①穴にはまってしまう設定　②飛行機が飛び立つ場所　③バレリーナになってのジャンプ台などのみたて遊び
・2/3節分　”おなかのなかにおにがいる”をまめて「おこりんぼおに！おにはそと！」など口にしながら豆まきをする

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
・バンダナ以外のサイズの布や洗濯ばさみの数を増やす
・簡易的な衝立を作る
・コーナーごとに設置していた仕切りを外す
・ままごとコーナーは棚とシンク、コンロを使うスペースのみにし、テーブルを外に出す
・親子で遊ぼう会にむけて、大きなお鍋をつくる（おなべおなべにえたかな）
・保護者と引っ張りあう、苗をつくる（おおきなかぶ）
・お世話とごっこ遊びを同じ空間にする
・鏡を棚に貼つける
・お医者さん、美容院の玩具や巾着袋を増やす
・絵本からのイメージを持ち豆や鬼を自分たちで作り豆まきをする
（おなかのなかにおにがいる）

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・自由に好きな場所に運べる衝立を出す
・ごっこ遊びにつながりそうな絵本を読み模倣遊びにつなげる
（おなべおなべにえたかな、てぶくろ、おばあさんのスープ）
・ごっこ遊びや絵本の世界の再現遊びを保護者と共有しながら楽しむ（親子で遊ぼう会）
・見立ての中に具体的な道具を取り込み日常の再現遊びが出来るようにする

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

・公園の草刈り後にまとめてある草を木の根っこに運び
「そらまめくんのフワフワベッドなの」と草の上に1人が寝転ぶと一緒にいた友だちも草を運びみんなで寝転んでいた。又「みんなおはよう！おきて！」と声をかけると朝の流れの再現遊びになった。
・洗濯ばさみを増やしたことでスカートと布を洗濯ばさみで止めてドレスにする
・大きな布を敷いてお気に入りの物を並べ、自分の陣地を明確して遊ぶ
・カラフルな洗濯ばさみを髪の毛に止めおしゃれ遊びが流行る
・「くっつければいいよ！」「はさむやつもってくるね」「ここもってて！」など衝立を自分たちでつなげて遊ぶ
・お医者さんの服を着て、聴診器を身につけ、椅子を5～6個並べると、友達が座り待合室になる。「次の方どうぞ」と順に呼ぶと「おねつなんです」「おなかいたいんです」と前にすわり診察がはじまる
・”あぶくたった”の遊びが出来るようになり”おなべおなべにえたかな”の絵本を真似て遊ぶ
・親子であそぼう会で、絵本の世界の模倣と日常の再現あそび、散歩の冒険を合わせた遊びを保護者と楽しむ
・おかあさんごっこ、保育園ごっこ、病院など子ども同士で役割分担をしてあそぶ。
・保育者は模倣遊びの準備を進めタイミングを見計らって一緒に遊び、こどもたちの遊びに繋げていった。

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・イメージを形にする力、発想が豊かであった。
・大人のやっていることをよく見ている。再現の様子がリアルで面白かった。
・実生活で経験していることは役割分担が自然に成り立ってい板。買い物は保護者が主体なので経験と結びついていないが、こどもたちが主体的に経験をしている病院や美容院、保育園などはいろいろな役も楽しめるのだと思う。
・遊びを守るための仕切りは遊びの広がりで不要になった。好きな遊びを、好きな友達と、好きな場所であそんでいる。
・空間づくりのための協同作業が一緒に遊ぶきっかけになった。
・今回テーマにそってこどもたちの遊びの姿を追うことで並行遊びから協同的遊びに発展していく経過に気付くことができたので、これからの保育につながると思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1223
施設名	MIWA木場公園保育園
施設所在地	江東区木場4丁目1番65号
法人名	社会福祉法人みわの会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

光と影

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

窓から太陽の光が差し込む保育室で、設置したクリスタルに光が反射しキラキラと輝いている事に子どもたちが気づき「魔法みたい！きれい！」とそれぞれの感性で楽しんでいた。

２．活動スケジュール

クリスタルの設置によって光への興味を持つ。

積み木をの影や影の色の変化を楽しむ。

ステッキ製作→キラキラテープの反射を見つけ、反射を遊びに取り入れる。

虫メガネ製作・マント製作→カラーセロファンを外で使用した時の影の変化を発見し影の動きや影について興味を持つ。

ステンドグラスの設置で光が入ってくる天気や時間の関係を知る。

カプラのクリスマスツリーにライト点灯し光の置き方によって変わる光の見え方の違いを楽しむ。

影を取り入れた遊び、影踏み遊び。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
・クリスタルを窓際に設置した。
・クリア積み木を窓際に置いたり、テラスで遊べるような時間を設けた。
　下に白い画用紙を置くことで影の色を強調した。
・ステッキ作りではキラキラの装飾テープを用意した。合わせて冠作りも始まり窓際に行くと光が反射して本当に魔法かのように楽しむ事ができた。
・虫メガネ、マントはカラーセロファンを用意。
　虫メガネは首から下げて散歩に出れるようにした。
・太陽の差し込む方角に大きなステンドグラスを設置。
・クリスマスツリーに小さなキャンドルライトを８個程用意。
　カプラの周りに置いたり、カプラの中に入れることができるようにした。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

差し込む太陽光に積み木を並べて影遊びが出来るように設定しておくと、すぐにこどもたちが気付き、遊び始めた。大きな窓から差し込む太陽の光を“道”と呼び、道に積み木を置くと色が付き、さらに積み木を重ねると影の色も変わるという事に気づき、色の変化を楽しむ姿につながっていた。

ある日同じ大きさ・同じ形の積み木でも向きを変えると影の形が変わるという事を発見！

時間が経ち太陽の位置が変わると道がずれていたり、太陽が雲に隠れると道が消えてしまったり、遊びを通して「あれ？なんで？」と光と影の関係の不思議を感じているようだった。

まだ説明しても理解し難い部分があるものの、「なんでだろう？」「次道が出てくるのはいつだろう？」という疑問や気付きを大切にしながら共感し、興味関心を深められるよう援助した。

散歩先にアクリル積木を持っていけるようにして光と影の面白さを探求したり、カプラでクリスマスツリーを作った際には、日中と夕方の日の差し込みや光の違いに気付けるようライトを用意したりした。普段のカプラ遊びに光が加わり、保育室の電気を消してライトアップされると喜び、「お昼は光らなかったんだよ！」と興奮しながら気付きや喜びを伝え合っていた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

小さな変化によく気付く子どもたちは、保育者が設置したきっかけに早い段階で気付き、太陽で差し込む光を”道”と呼び、自分たちの知っている言葉で表現していた。

遊びの中で子どもたちが見つけるもの・ことに対して共感し、発見する喜びや友だちに教えてあげようとする姿を見守りながら、あくまでも保育士はきっかけ作りをするだけでこどもたちが見つけ「なんでだろう」という探求心を育てていった。すぐ答えを導くのではなく、いろんなもので試して、一緒に探求することを大切に過ごした。

子どもたちは気付いたことや思いついたこと、「やってみたい」という好奇心「楽しい」という思いを言葉や行動で表現していたので、寄り添い、存分に試せるように配慮しながら共に自然（光と影）の面白さを感じながら過ごした。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

保育室に設置したクリスタルの光から始まった活動だった。
クリスタルの光は午睡明け（午後３時頃）に輝くが常に輝いているわけではなく、輝かない日もあった。そんな日は「今日は光らないね」と気付く姿や「なんで光らないんだろう」と疑問に思う子どもの姿があり「光に興味関心が高いクラスなのかもしれない」と感じ、光に関する活動や気付いてもらえるような仕掛けを取り入れた。
散歩に出た日には、木に触れて「こっちは暖かいけど、こっちは冷たい」と日向と日陰の違いを感じたり、光と影の違いを目で楽しむだけでなく、触れて温度の変化に気付いていた。
子どもの「なんでだろう」に寄り添い保育士も学ぶこと・気付く事が多くあった。
難しいことを取り入れるのではなく、日々の遊びを振り返り、話し合い、次の日の計画に落とし込むことと、木場公園の豊かな自然や日当たりのいい保育室に恵まれ、遊びながら探求心を育てることが出来た。日頃からこどもの発言や行動を観察し、共に面白がることで遊びが展開し長期的に楽しむことが出来るのだと学びの多い活動となった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1223
施設名	MIWA木場公園保育園
施設所在地	江東区木場４－１－６５
法人名	社会福祉法人みわの会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

・公園内にある保育園という特色を生かし、身近な自然から四季を感じたり、疑問に感じた事に思いをはせて観察したり、試してみたりして興味や関心を深めていきたいと思った。

・秋の探索を通じて木や葉への興味や関心が高まっている様子があったので、木管楽器や身近なものから作られている楽器について興味が広がるようにしたかった。

・食べる事が好きな子が多かったので、豆についてや発酵など、食育にも興味が繋がるようにした。

２．活動スケジュール

・「こどものにわ」での泥遊び。木や草、藁を使った遊び。６月１４日（２０名程１時間）、２７日（２０名程１時間）、１２月６日（１５名程６０分）、１月３１日（２０名程６０分）

・散歩を通じて、落ち葉や木の実などの自然物に触れ、興味や関心を高める。９月５日（１０名程１時間）、９月３０日（１５名程９０分）、１０月７日（２０名程９０分）、１１月５日（２０名程９０分）、１１月６日（１２名程９０分×２）、

・雨上がりの散歩。しずくとの出会い。９月２７日（１５名程３０分）、１１月１１日（２０名程９０分）、１１月１８日（１０名程６０分）

・楽器は何からできている？　→マリンバコンサート→廃材での楽器作り、楽器遊び。１２月１０日（２５名程９０分）、２月２５日（１５名程６０分）

・豆への興味→味噌作り。１月３０日（２０名程９０分）

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
・マリンバコンサート
・楽器遊びができるように拾ってきた自然物を中心に廃材や毛糸などの素材を準備する。
・味噌作り
・味噌作りの導入として、数種類の豆を用意。プランターでの栽培。水につけて発芽。
・じっくりと観察することを楽しめるように虫眼鏡を用意。
・落ち葉を集めて遊びに活かせるよう、大きめのビニール袋を用意。持って帰った物で遊べるよう環境を整える。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・こどものにわにて、砂や泥に触れて全身であそぶ。草や丸太、藁などの自然物を自由に遊びに取り入れて、友達と一緒に試行錯誤しながら遊びを繰り広げていく。
・少人数で散歩に行く中で子どもの声に耳を傾け、発見や驚きに共感し、友達や保育者と一緒に探索遊びを楽しむ。（秋や雨あがりなど）
・雨上がりの散歩ならではの出会い（しずく・みずたまり）を大切にし、発見や驚きを楽しむ。
・廃材での楽器作りを通じて木管楽器のマリンバコンサートに興味をもてるようにする。コンサート後に様々な楽器を見せてもらい、説明してもらう。興味の深まりをさらに表現して遊べるよう、楽器遊びや廃材遊びを行う。
・豆に親しみが持てるよう透明容器に入れていつでも手に取れるようにした。豆の発芽や栽培、絵本を通じて大豆の変化について知ることで導入を行い、味噌作りを行った。→年間で作っていく予定

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）
・泥遊びが出来るように水を撒くと、水たまりが出来る。転々とできた水たまりをつなげようと、水流づくりへ発展する。
・絵本を通じて落ち葉遊びへの興味や関心を高めてから散歩に出ると、葉の色や形、大きさなどの違いに気が付き夢中になって探して比べて観察していた。近くの木を見比べて「どの木から落ちてきたのかな？」と友達同士で会話しながら考えている様子も見られた。拾った葉は園に持ち帰り押し葉にした後、フロッタージュや製作遊びにも使い室内でも楽しんだ。
・カタツムリがよくいる場所がわかると、雨上がりはそのスポットへ行きカタツムリ探しに夢中になる。殻に閉じこもったままのカタツムリをじっと観察する。姿を現したがA君が触ってしまい、カタツムリが殻に戻ってしまう。その後はA君も触りたい気持ちを押さえてじっと観察し、全容が現れると友達と喜び合っていた。園内でもしばらく飼育する。
・雨上がり葉に雫がたくさんあることに気がつくと、「キラキラしているね。宝石みたい」と言って雫を探して探索が始まった。虫眼鏡でみたり、葉先をしならせて雫をジャンプさせたりして遊びが広がった。また、水たまりに浮かぶ葉や水の動きを楽しみ遊ぶ。
・「長さが違うけど音は一緒かな？」と木の枝を追って遊ぶ姿や、廃材でマイクや楽器を作って演奏会をして遊ぶ子どもの姿があったので、マリンバコンサートを行った。木でできた楽器だけでなく、様々なものから楽器が出来ていることを知ると、廃材でレインスティックを作って奏でて遊ぶ。
・豆には沢山の種類があることを知ると、興味をもって見たり触れたりする。豆は水につけて発芽するかを日々観察し、「出てきたよ」「大きくなったね」と楽しみに見ていた。味噌作りへの導入を行ったため、興味を持って味噌作りに参加できていた。

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・少人数で活動する中で、落ち葉や秋の自然物に特化した探索を重ねると、次第に気付きや発見が増え、それらを保育者や友達と共有することを楽しみ、「なんでだろう？」という疑問や「〇〇かもしれない」という仮説を立てて、より身近な自然に興味や関心を持つようになった。感性の豊かな育みを感じることが出来、一人ひとりの興味や関心について改めて知る機会となった。

・環境設定を整えたり、意図した活動を重ねていく中で、こども達の活動意欲も育まれていった。自然というテーマで行った活動だったが、音楽活動や食育活動にも繋げることが出来、子どもたちの豊かな活動にすることができた。

・晴れの日に限らず、雨上がりの散歩ではたくさんの気付きや発見があった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1223
施設名	MIWA木場公園保育園
施設所在地	江東区木場４－１－６５
法人名	社会福祉法人　みわの会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

・自然

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

・公園内にある施設という特色を活かし、木場公園、他の場所で自然に触れる中で気づきや疑問に感じたこと、やってみたいことを友達や保育士、講師と共に探求していく。

・ネイチャリングという活動で自然探索を行う中で、自然に対して多様な視点で関わっていけるように専門的な講師を招き活動していく。

２．活動スケジュール

①散歩を通して自然探索。木の模様や葉にお絵描きをする（10名程度60分）
②竹のペンを使い絵を描く（23名90分）
③絵本作り（21名90分）
④戸外で花の香りを感じたり、木の実に触れる、葉の形の違いに気付くなどの自然探索（23名90分）
⑤色水遊び（20名80分）寒天作り（15名40分／22名40分）
⑥土粘土（18名90分）
⑦葉っぱ探し（19名90分）
⑧散歩先で出会った葉、木の実、石を使い並べたり、色をつけたりなどの製作
⑨芋掘り焚火遠足（23名半日）
⑩どんぐり拾い（23名90分）
⑪干し芋作り（10名程度45分／8名程度20分）
⑫落ち葉遊び（10名程度45分）
⑬焚火（木炭作り）（22名90分）
⑭木炭で遊ぶ（5名45分）
⑮どんぐりの果軸で遊ぶ（24名90分）
⑯木炭の絵の具作り（7名40分）
⑰絵の具作り（22名90分）（5名30分）（4名30分）
⑱春の自然探索（25名90分）
⑲お花紙遊び（19名60分）

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
①１２０ℓ透明ポリ袋、段ボール、クレヨン、色鉛筆
③竹のペン、カーボン紙、墨汁、クレヨン
⑤紙皿、墨汁、洗剤
⑧OPP袋、のりパネル×3、ラインパウダー、パステル、模造紙
⑨バス、焚火台、薪、さつまいも掘り
⑩どんぐりマップ、どんぐりを仕分ける箱
⑰すり鉢、すりこぎ
⑱白い紙
⑲お花紙、のり、養生シート、スプレーのり

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

⑤〈寒天づくり〉水遊びの中で「水が固まったらいいのに」というこどものつぶやきからどうやったら水が固まるかを考えた。ゼリーの作り方をしっているこがいて寒天づくりに繋がっていった。寒天遊びをすると「食べてみたい」という声が今度は上がり、おやつ作りとして寒天作りにも繋がっていった。
⑧公園で葉っぱをたくさん拾い、それを机に並べて仲間探しをしたり、OPPの袋に入れて袋の上からペンで葉っぱをなぞって色をつけて遊んだ。A1ののりパネルに葉っぱを貼りその上に模造紙をおいてパステルで葉の形を出した。
⑨芋掘りでは普段はなかなか触れる機会のない畑での土に触れる体験を行った。
焚火体験、かまどで薪をくべて炎を見たり匂い、木のはぜる音を聞く。
⑪掘ってきたさつまいもで干し芋作りを行う。
⑫焚火に使うどんぐりや枝を拾った。⑬焚火体験では自分でマッチを擦る、炎を見て五感で感じる。
⑰〈絵の具作り〉
焚火体験で出来た木炭をすり鉢、ミキサーで粉状にし水と糊を混ぜて絵の具を作った。
粉＋水＋糊で絵の具が出来ると知り、身近にある自然物や食品を使い絵の具作りを行う。
活動していると「虹が作りたい」という声がこども達から聞かれ７色を意識して探すようになる。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

⑤寒天は海で採れる海藻ということを知り、匂いをかいで「なんか変な匂い」と感想を共有したり、棒状の寒天を触り感触を確かめていた。お湯に溶かしただけですぐに固まり始め、遊んでいる間に徐々に固まっていく様を何度も見に来ては「わぁ！もう固まってるよ」と友達に自分の気づきを知らせていた。赤、黄、青、緑の物を作り色の混ざっていく様や手で握ってつぶれていく感触を楽しんでいた。

⑧同じ葉を探すのを楽しんで行っていた。なかなか見つけられないこには助け舟を出すなど連携する姿が見られた。葉の写し絵は葉脈まで細かくなぞるこが多く、集中して行っていた。鮮明に見える袋だったからこそ細かい所まで観察することで葉の仕組みを知れていた。色は自分の好きな色を塗り、素敵に仕上がっていくことに満足している様子もあった。パネルに自由に葉を貼っていく面白さ、並べることで見えてくる葉の違いに気付いていた。パステルで塗ることでカラフルになり素敵なアート作品になりこども達も嬉しそうだった。

⑨［芋ほり］土に触れ、土の奥に埋まっていて掘り出す難しさを感じながら友達や保育士と協力したり、掘る方法をそれぞれに工夫していた。［焚火］近くに行くだけで熱さを感じ「うわぁ燃える！」「あっついね」と感じたことを話ていた。

⑪何を作ろうか？と問いかけると「干し芋作りたい！」という声があがった。干し芋の作り方をこども達と考える。どうしたらやわらかくなる？「煮る」「揚げる」など様々な意見が出た。煮る物の蒸す物の２種類作ることにし、ゆでる様子を見て、やわらかくなった物を触ったり、切ったものを干して変化していく様を観察した。登園すると乾燥の進み具合を確認し、完成を楽しみにしていた。表面が固くなり食べられるとなると「白い粉出てないけどいいの？」疑問に持つ子もいたので、白い粉はなんで出るのだろうと本で一緒に調べたり、それぞれの考えを聞くなどした。

⑬自分達で拾った枝やどんぐりの果軸を入れて焚火をし、一人一人マッチを擦っ火をつけた。燃えていく様を見ながら慎重に火をつけ、出来ると満足した表情が見られた。缶に枝などを入れて木炭を作る際は缶から煙が出ていることに気付き「煙が出てるよ！」と友達に共有する姿があった。枝が燃えて白くなっていたり、煙がたくさん出ている部分に気付くなど発見が多かった。匂い、木のはぜる音、炎の暖かさ、熱さ、煙など五感を使い様々に感じていた。⑭焚火でできた木炭で絵が描けることに驚いていた。手紙を書いてみたり、絵を描いて楽しんでいた。⑯[絵の具作り]すり鉢で木炭を砕き粉状にしていく過程を楽しんでいた。すり鉢を行う順番を自分達で割り振り、すっていないこはすり鉢を支えて手伝うなど自然と友達同士で協力している姿が見られた。細かくなっていくと光の加減で木炭の欠片がキラキラ光「きれいだよ！」「宝石なんじゃない？」など気づきを口々に伝え合っていた。粉になったものに水とのりを混ぜ絵の具を作る。濃さや水分の加減をそれぞれにこだわって行い紙に絵を描いたり手に塗って楽しんでいた。手に塗ると「じゃりじゃりする」と感触を感じていた。この体験から粉があると絵の具が出来ると繋がり、食べ物の粉や自然物にも興味が広がっていった。赤い葉、かぼちゃの黄色など色が増えていくと「虹を作りたい」という目標がこども達の中で芽生えていた。７色探していたが青は見つからず、ドキュメンテーションを通して保護者にも問いかけていった。

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

都立公園の中にある立地を活かし自然には沢山触れてきていましたが、視点を変えたり、自然物を用いて遊ぶ方法を模索したり、環境を整えることで、こどもたちの探求心が深まっていくのだと学びになりました。特に焚火は近隣の公園では体験出来ないため、遠足に行き体験できたことが良かったです。こども達がいきいきと活動に向かい、発見を楽しみ、気づきを共有したり協力し合う姿が自然と生まれたのも少人数で心の動く活動を出来たからだと思います。興味関心の示し方に個人差があるので、発見したことや感じたことの共有の仕方など、工夫をしていく事が課題だと感じました。